Ⅰ．令和４年度（2022年）　事業報告

新型コロナウィルス感染症対応が軽減した中、計画した事業をほぼすべて実施することができました。感染予防措置にご協力頂いた参加者をはじめ、地元スキー場関係者、ご支援頂いた協賛会員ならびに適切な運営をされた専門員、役員の皆様へ深く感謝申し上げます。一方、事業内で事故が止まらない状況です。安全を最優先とした運営を心掛けましたが、このような結果となったことを猛省し、事故防止及び発生時の対応マニュアルを展開する所存です。

しかしながら我々を取り巻く社会環境はさらに厳しい状況にありエネルギー・食料価格高騰などにより、参加者の方々に大きな負担を強いる結果となりました。この状況は当連盟の執行には経費上昇となり、さらに参加者や登録会員減少等により収益が圧迫され、財務に大きな影響を与える結果となりました。

このような状況下でしたが、次世代を担うジュニア選手の活躍がありました。JOC ジュニアオリンピックにて大回転優勝、パラレル大回転３位となり、これに続き多くの入賞選手を輩出することができました。県スポーツ協会、南関東ブロックの支援による選手育成の成果と考えます。

昨年に引き続き開催された第 13 回市町村対抗競技会は、多くの SAK 会員に参加頂き地元ご協力の中、盛大に開催されました。総務本部も事業運営に加わり、新たにクロスカントリーワークショップやレーシングワークショップの実施など、会員の皆様へ楽しんで頂ける事業へ発展することができました。

また４本部制となった１年目でしたが、新たに発足した企画マーケティング本部は、いままで実施できなかったチャリティーゴルフの後援、ポールトレーニング事業などを通じて、協賛各社との絆を深め、一歩を踏み出せたと考えています。

ハンディキャップ事業は、現地参加形式を取ることで、五竜及び車山スキー教室を多くのボランティアの方々に参加頂き実施することができました。引き続き多くの皆様にご支援を頂けるよう取り組んで参ります。

新たにスポーツ振興基金から第14回市町村対抗競技会へご支援を頂くことが決まりました。上部団体（SAJ、県スポーツ協会）からのこのご支援を適切に処理できるよう、ガバナンスコードを遵守した事業運営を継続していきます。

事業運営面では南関東ブロック協議会と連携を取りながら大会を実施してきました。引き続き、良い関係を深められるよう取り組みます。

人材育成においては女性理事の登用により、事業運営面で視点も変わってきました。良き事例として、今後も各種委員会へ多くの会員が参加頂けるよう努めていきます。

Ⅱ．令和４年度（2022 年）　総務本部事業報告

１．事業運営の取り組み

総務本部は、今期から、本部長以下、女性４名の理事で運営して来ました。
県連理事全体で女性比率 20%となりました。スポーツ団体ガバナンスコードが掲げる女性理事 40%目標数値までは届きませんが、スポーツ界が多様な視点や考え方を取り入れた素晴らしい業界となるよう、我々としても更に努力していきたいと考えています。
また、市町村対抗スキー競技会も、プロジェクトを立ち上げて準備運営を総務本部で実施して、新しい雰囲気で進めて来ました。これからの取り組みにもご期待ください。

２．財政への取組み

財務体質の強化は、前年度に引き続き積極的に活動し、スポンサー様からの支援金より財政に寄与いたしましたが、当期財政状況は、電子会議の活用による経費節減、各本部の事業経費節減、前年に引き続き収支均衡運営に努めて参りましたが、コロナ禍による教育本部の研修会参加者の減少等により、事業運営経費との均衡を保つことはできず、正味財産は減少となりました。改善に向け、更なる経費の削減と新たな収入を検討し、新年度の執行方針に基づき改善に取り組んで参ります。

３．ハンディキャップ事業およびジュニア事業の普及・発展

ハンディキャップ事業は、コロナウィルス感染対策をしながら、久しぶりに実施しました。その他の事業も、感染対策のもと開催することが出来ました。一層の充実にむけ関係団体との連携を図り新年度執行方針にもとづき取り組んで参ります。ジュニア事業につきましては、若年層のコロナウィルス感染拡大時期であったことも勘案し開催を見送りました。この事業は、加盟団体等のジュニア事業サポートが主な目的で実施して参りました。近年では希望する加盟団体等とコラボ開催することでそのノウハウの共有化を図って参りましたが、初期の目的は概ね達成していると考えます。今後につきましては加盟団体等主催事業のサポートを中心に活動して参ります。

4．他団体との連携強化および人材育成への取組

他団体との連携強化は、Web 会議などを通じ円滑な連携が保たれていると考えます。引き続き当連盟の円滑運営に資する連携強化を図って参ります。人材育成への取り組みは、役員・委員の基礎学習及び専門性の向上のための教育、育成ついて、年度初めに理事セミナーを実施しました。

Ⅲ．令和４年度（2022 年）　教育本部事業報告

令和４年度もコロナ感染拡大の影響下、指導者資格取得・研修会クリニックに付きましては、できる限りの対策を講じ取り組み、皆様のご協力のもと全ての事業を実施することができました。

1.　事業運営の取り組み

コロナ感染拡大防止下での対応

・研修会・クリニック理論・養成講習会理論は昨年同様すべてｅラーニングで行いました。運営面でのメリットも大きく継続していきたいと考えています。

・研修会クリニックについては、今後も班構成や講師の配置の効率化を推進して行きたいと考えています。

2.　継続的取り組み

・準指検定会は本年度も予定通り実施することが出来ました。認定指導員受検者は本年度対象者なしとなっています。

検定会運営につきましては、SAJ からのコンプライアンス対応を継続してきました。

研修会クリニックについても、計画通りの実施となりましたが、令和４年度も一部感染防止特例を活用しての取り組みとなり、受検者受講者の皆様には、特例処置を活用しての参加となってしまいました。

クリニックの運営については、昨年度からの取り組み（研修会とのセパレートによる内容の充実）を継続してまいりました。

研修会では講習内での安全対策面での認識を深めるため、安全対策委員会より、短時間ですが実技講習前に事故発生時の対処方法について、30 分程度のオリエンテーションを実施してきました。

3.　ジュニア事業の推進と選手強化

・県技術選手権大会（千葉県合同）は、２年振りに２日間開催となり、シニア・ジュニアの大会も併設１日にて開催することが出来ています。参加者の拡充もおおよそ順調に推移していますが、ジュニアの参加者数の増大が今後の課題となっています。

・全日本技術選は、昨年に引き続き若い選手の台頭が目立ちました。

4.　経費削減について

・特に研修会に関して、講師配置や、班構成を工夫し運営の効率化を図ってきました。ある程度の効果は出てきていると思います。今後もサービスの質との両輪を考え継続していきます。

Ⅳ．令和４年度（2022 年）　競技本部事業報告

令和４年度は、できるだけ行事を中止することがないよう運営しましたが、エントリー数の大幅な減少によりチャレンジＣＵＰ第２戦を中止せざるを得ない状況となりました。

国体においては得点を挙げることができ、また第１シードを複数獲得することもできました。

１．　事業運営の取組み

事業について、可能なかぎり収支均衡を目指しましたが、赤字の解消には至りませんでした。

競技運営については、選手にとって公平公正な運営をしました。

新型コロナ対策については、引き続き県等の方針に従った運営をしました。

１）　競技規則の順守と、安全を最優先した事業運営に取り組みました。

２）　会場変更等の工夫により、多くの会員（選手）が参加しやすい事業設定（会場、移動距離等）を行いました。

３）　現地との協力関係により、様々なカテゴリーの選手、様々な目的を持った選手が競技会に参加できる競技会の環境の整備につとめました。

４）　可能な限り、現地でのスタッフの確保の拡大につとめることにより、経費の圧縮に取り組みました。また、経費負担の大きな大会については、他団体の大会の活用を試みました。

５）　予算、規模にあった会場の選定を行いました。

２．　選手強化

県スポーツ協会に加盟する競技団体の目標は「国体」であり、当スキー連盟も選手強化の目標を国体に絞り、国体での入賞を目指して選手強化を実施しました。

また、ジュニア強化についてはジュニアオリンピック等の各種大会において上位入賞ができるように選手強化に取り組みました。

１）　アルペンではオリンピアンを含めた外部指導者の協力により選手強化を実施しました。

ノルディックでもオリンピアンによる講習会の実施等により、すそ野を広げる活動を行いました。

２）　国体入賞を目指して成年組の選手強化プログラムの実践（アルペン）を行いました。

３）　ジュニアについて、中体連、高体連と連携を取りながら、全中、インターハイ、国体少年組の入賞を目指して、外部指導者と連携を取りながらに強化を行いました。（アルペン）

４）　高体連、大学等外部の監督、庶務等の関係者と連絡を取りながら選手の把握につとめました。（ノルディック）

３．　スポンサーとの連携活動

１）　スポンサーと連携して大会運営を進めました。

４．　他団体との連携・組織運営

１）　市町村対抗では、加盟団体と人材の交流、情報交換を行いました。

２）　固定費削減に向けて、大会で他団体との連携を行いました。

Ⅳ．令和４年度（2022年）　企画マーケティング本部事業報告

企画マーケティング本部として１年目のスタートとなりました。

各事業をゼロベースで見直しを行い、新たな事業スタイルへ変革していくという大任の中、会員の皆様のご支援、ご協力の下、一歩ずつでありますが前に進むことができました。

いままで実施できなかったチャリティーゴルフの後援を通じジュニアアスリートへ多大なご支援を頂戴することができました。その絆によりシーズン直前の慌ただしい中、ビブを提供頂き、県連主催大会に間に合わすことができました。これらのご支援に深く感謝申し上げます。

またクラブチームが独自で実施できないポールトレーニングについても、素晴らしい指導者のもと、２会場で実施することができました。当連盟のトップクラスの選手も参加し、国体で好成績を上げ、来年に向け好シードを確保できました。今シーズンの選手の活躍が期待されます。クラブ選手の参加は少なかったですが、直前に控える市町村対抗に向け格好の練習の機会となることから是非参加をご検討下さい。

４月には、エンジョイ・スノーボードフリーライディングとして事業を実施しました。

少人数ではありますが来シーズンの技術選手権に向け、参加者のレベル向上を図ることができました。

次年度に向け、情報発信は非常に重要となります。タイムリーに情報発信ができるようSNS 情報発信委員会の立ち上げを実施し、ホームページと連携が取れるようホームページ制作委員会をスタートさせました。

イベント企画実行委員会には、有識者へ参加頂き、新たな事業を実施することができました。今後、協賛各社殿へ提案型イベントをご協力頂ける体制を築いていきます。